

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
心理学 Psychology		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	特に無し
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特に無し				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特に無し				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
心理学は、さまざまな場面で生じてくる「こころ」の現象を、理解し、日常場面で役立つ形でその成果を応用していくことを目指す学問である。「心理学Ⅰ」では、心理学の入門編として、心理学の各領域の紹介につとめるとともに、特に下記の内容に焦点をあて、私たちの「こころ」のしくみについて解説していく。				
授業の目標				
心理学の基本的な考え方や技法を紹介するので、 ①これらを自分の生活の中における様々な現象・行動理解の際に利用することができるようにする。 ②客観的な視点で人間の行動を捉えられるようにする。 ③個人および集団行動の傾向を知り、人間理解を深められるようにする。				
授業の方法				
視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて進行する。単元の終了ごとに小テストを行う。学期末に論述試験を実施する。好ましい論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。				
学習の成果（学習成果）				
(1) 個人や集団の行動の裏に潜む、反応の根拠や法則性に気づき、言及できる。 (2) 興味を持って人間の営みを観察する視点を身につけ、学んだことと身近な事象とを結びつけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：心理学とは こころの存在へのアプローチ 心理学の誕生と発展 心理学の領域			
第2回目	心理学の方法と可能性：人間理解とその方法 心理学的視点とは			
第3回目	社会行動：社会の中の自己 他者の存在とその影響			
第4回目	社会行動：集団における他者からの影響 リーダーシップ			
第5回目	パーソナリティ：パーソナリティの捉え方 遺伝と環境の関係 主要人格検査の紹介			
第6回目	パーソナリティ：性格の形成と理解 人は発達変容する 発達段階と課題 メンタルヘルス 自分を知る			

第7回目	感覚と知覚：環境をどのように捉えるか 五感の性質 知覚のしくみ	
第8回目	感覚と知覚：錯覚と盲点を知る	
第9回目	記憶と認知：ヒューマンエラー 覚えるしくみとその発達 日常的記憶 記憶の役割	
第10回目	記憶と学習：忘却と記憶の混乱 記憶法 思考とは 学習の基礎概念と方法 知能とは	
第11回目	感情：我々の感情 感情の役割 感情の発達	
第12回目	感情と欲求：欲求不満と葛藤 欲求不満耐性	
第13回目	適応と不適応：臨床心理学とは 精神分析理論 適応のメカニズム	
第14回目	適応と不適応：臨床心理学とは 心理的援助技法	
第15回目	心理学の可能性：日常生活の中に心理学を活かす	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
	授業参加態度	20% 講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。
	レポート	
	調査報告書	
	小テスト	20% 日常の努力点として勘案。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
	試験	60% 設問への妥当な回答、学習の成果が反映されている回答がなされていることが評価の要件となり、日常生活における事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
	発表内容（態度含む）	
	その他	
教科書と参考図書		
教科書：『心理学入門：こころの仕組みを理解する』平田裕美・伊藤美奈子〔編〕（建帛社）。参考書は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は授業参加態度において減点の対象とする。		